

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成 26 年 8 月 1 日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 教授

氏 名 北島 薫

事業区分	平成 26 年度 ・ 国際研究集会派遣助成		
研究集会名	Association for Tropical Biology and Conservation 2014 Annual Meeting		
発表題目	Ontogenetic shifts and concordance of functional traits and their association with tree demography in Panama		
開催場所	Cairns, Queensland, Australia		
渡航期間	平成 26 年 7 月 20 日 ~ 平成 26 年 7 月 29 日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	250,000 円	
	使用した助成金額	250,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	往復航空券	131,299 円
		学会参加費	650 豪ドル (66,950円)
		宿泊費	839 豪ドル (95,584円)
タクシー、電車等		15,000 円	
	食費等	30,000 円	
	(上記合計 338,833 円、不足分は私費で補足)		

成果の概要 (平成26年度 国際研究集会派遣助成)

京都大学農学研究科森林科学専攻 熱帯林環境学 教授 北島薫

集会名：国際熱帯生物保全学会 2014年度学会 (Association for Tropical Biology and Conservation (ATBC) 2014 Annual Meeting, 本会議 7/20-24) 及び、気候変動の熱帯生物への影響についての学会後特別研究集会 (Post-meeting workshop, 7/25-28)

集会場所： オーストラリア クイーンズランド州 ケアンズ

渡航期間：2014年7月19日 - 2014年7月29日

1965年に発足したATBCは、熱帯の生物学と保全学において、世界で最も大きい国際学会であり、毎年、世界各国で年例会を開いている。また今回の集会は、ATBCアジア太平洋地区会 (ATBC Asia Pacific Chapter) と本学会の、合同集会であった。私、北島薫は、この学会で、研究発表を行うだけでなく、過去8年間においては学会の運営においても、評議員、また、幹事として、国際的な学術ネットワークの構築に貢献してきた。今年の学会には、約50カ国から560名の参加者があった。私は、以下の5つの面で積極的な学術交流を行った。

1) 7月20日の学会評議委員会 (ATBC Council Meeting) への参加。北島は唯一の日本人参加者であり、昨年のコスタリカの学会の運営委員長としての報告や、学会会計関係のアドバイスなどを、評議委員会で行なった。また、2013年8月のアメリカから京都大学への移転に伴って、今後は日本熱帯生態学会のATBCリエゾンとして、アジアの熱帯生物保全学術ネットワークに重点をおいて貢献することを報告した。

2) 7月21日から24日までの4日間にわたるの学会中は、口頭発表やポスター発表のセッションに参加し、発表賞候補の査定なども行った。また、自由時間にも、世界各国からの多数の参加者と学術交流を行った。

3) 7月23日の午前中は、2時間にわたるシンポジウム "Trait-based Trade-offs in the Tropics" の企画者として、セッションの概要の紹介、および、自身の口頭発表、"Ontogenetic Shifts and Concordance of Traits and Their Association with Tree Demography in Panama" を行った。セッションには50人を超える聴衆が参加し、好評であった。セッション後には、発表者に加えて、このテーマにおける国際的データベース構築に興味を持つ10人の学者が集まって、夕食会を兼ねたディスカッションを行い、今後の学術交流の計画を相談した。このシンポジウムの共同企画者の Dr. Sabrina Russo (University of Nebraska - Lincoln) とは、この秋に共著の総説を執筆する予定である。

4) 7月23日には、ATBCアジア太平洋地区会の運営委員会が集まり、いくつかの議事がとりおこなわれた。ここで、私は、正式にアジア太平洋地区会の日本代表として正式に認証された。来年のアジア太平洋地区会は、カンボジアで開かれることが決定され、この企画運営にも参加することを要請された。

5) 学会後、25日から28日までは、今回の学会のホストである、ジェームズクック大学の後援のもと、気候変動の熱帯生物への影響についての研究についてのワークショップが、クイーンズランド州北部のデインツリー国立公園に接する同大学の研究林施設において開かれた。ワークショップの主催者は、Dr. Brett Schafferである。私は、約12人の招待された研究者の一人として積極的に討議に参加し、同テーマにおいてのアジアでの新たな研究方向を模索し、また、研究交流ネットワークの企画にも参加する相談等を行った。同グループによる、共著の論文を目指しての共同データ解析等の相談も行った。また、この研究林は、オーストラリア熱帯において唯一の林冠クレーンの所在地であり、私は、クレーンをつかっただけで、熱帯林上部での生理生態学的特性の研究の候補地として、以前から興味をもっていたので、実地見学を行った。

以上をまとめると、オーストラリアでの国際学術集会への参加は、既にこの分野において、国際的に著名である私にとっては、更なる国際研究交流を進めるのみでなく、私が今後は、日本をベースとする研究者として、アジアにおける熱帯林生物学、生態学、保全学の分野で、国際研究ネットワークの構築に積極的に参加することを広く知らせるといった意義が大きかったと考える。

以上